

# 旭川医大 病院ニュース



(編集) 旭川医科大学病院  
広報誌編集委員会委員長  
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>



## 年頭にあたって－誰の期待に応える病院か－

病院長 松野 丈夫

新年明けましておめでとうございます。旭川医科大学病院の病院長に就任して以来あっという間に過ぎた半年間を振り返ってみることにします。

この半年間は「旭川医大病院はこれから誰の期待に応える病院になるのか？そのためには何をすれば良いのか？」を考え続けた半年でした。まず「誰」には「いったい誰が入るのか？」を考えてみると、患者様、病院職員、地域社会などが入ると思います。当然患者様、地域社会は大事ではありますが、第一に病院職員（特に医師、研修医、中央診療部門、コ・メディカル）の期待に応えられ、病院職員の皆様にやる気を起こさせる病院でない限り、患者様や地域社会の期待に対して十分に答えることの出来るわけがありません。

この点から吉田晃敏学長のマニフェストの一つにある「頑張った部署に対してのインセンティブの付与」の一環として、「旭川医大病院に勤務する看護師、放射線技師、薬剤師などの医療技術職の学外研修費用の全額補助」を打ち出したことは特記すべきことです。そして第2弾としては中央診療部門に限り定年職員非充足の原則を変えてスタッフの充実を、第3弾としては担当医（主治医）の皆さんの「受け持ち患者の生命保険関連の書類書き」に対して、その費用全額を個人に還元することとしました。これらはすべて吉田学長の大英断だと思います。

次に病院長ヒアリングで各診療科、各中央診療部から出たてきた種々の要求（医療機器や職員のポジションなど）に出来るだけ応えるべく、吉田学長の指導を仰ぎながら積極的に「医療機器の導入・更新・整備、職員の皆様のポジションの再検討」などを行っています。これらのことが中央診療部、コ・メ

ディカルそして若手医師の皆さんが積極的且つ自主的に病院を盛り上げる原動力の一つになることを期待しています。ヒアリングを単なるヒアリングで終わらせないために、来年度の病院長ヒアリングで今年と同じ要求が出てこないような病院経営が必要ではないかと考えています。

またすでに皆さんがご存じのように現在病院内にタスクフォースを作り民間の経営手法を取り入れながら経営改善および病院機能・病院形態の改革を着々と行っています。現在のところ「外来における医師・看護師の業務の充実と外来業務の効率化」、「入退院センターの導入」、「ICU・手術部・救急部の充実」に関して積極的に見直しを行い、今後の方針を煮詰めているところです。一方病院経営において最も重要な問題である医療費率の削減については、(有)ドゥーダと協働で、医療材料物流および価格分析調査を徹底して行っています。その結果、すでに医療材料の購入価格削減の面で着実な効果が現れてきています。今後、さらなる医療材料の購入価格削減に向かってまい進したいと思います。職員一人一人が強い意識を持つことで、大幅な医療費率削減、その結果としての医業利益の増収は可能だと信じています。

現在旭川医大病院に必要とされているのは目に見える変革であると思います。今年の目標は、大きな変革からちょっとした小さな変革まで、何を行って何が出来ないかを全職員の皆様に明らかにしていることです。昨年は亥年であり、猪突猛進の病院経営でしたが、今年は子年です。細かいところまで気配りをする病院経営を目指したいと思います。病院全職員の皆様のご協力をお願いいたします。

## 二輪草センター開設のお知らせ

二輪草センター 復職支援研修担当医師 堀 仁子

10月1日に旭川医科大学病院に復職・子育て・介護支援センター（二輪草センター）が開設されました。（場所：外来3階、前緩和ケア診療室）これは文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」に採択された『育児と介護をささえるオールホスピタル計画—5段階教育プログラム「二輪草プラン」で安心復職—』を実施するために設置されたものです。

センターの目的は出産、育児および介護のために休業予定の医師及び看護師等に対し、復職に必要な情報提供および自学支援を実施し、円滑な復帰推進を図ることです。

仕事を継続していく上で育児との両立に努力、苦労されてきた女性医師、看護師等の方は今までにも数多くいらっしゃると思います。また、出産、育児を契機に離職された場合、仮に復帰しようとしても昨今の医学の進歩に追いついていけるか心配で復帰がためらわれる場合もあるかと思えます。このような問題を解決するために当センターでは復職支援研修部門として、潜在人材登録後、就業情報の提供をしつつ復職支援教育プログラムを提供します。子育て・介護支援部門としてはバックアップナースシステムや病児一時預かり室を稼働させ、旭川市の子育て支援制度・介護施設との連携窓口、悩み相談カウンセリング室としての役割も担っていく予定であります。詳細は大学HPにも掲載しておりますのでご覧ください。病院職員が働きやすい職場環境を整えるために職員皆様の当センターへのご意見もメール（nirinsou@asahikawa-med.ac.jp）等で頂けますと幸いです。

本センターはセンター長、副センター長の他、センター職員は私を含め専属で3名が勤務しております。また、二輪草プラン推進委員会として各科の医師、看護部、事務と月に1回会議を開き、来春4月の実質稼働にむけて準備を進めています。旭川医大病院が一丸となって復職・子育て・介護のサポート体制を整えていくことが、病院の魅力の一つとなり、医師・看護師不足の解消へ繋がり、そのことで男性医師・男性看護師等の負担も少しでも減るような好循環へのきっかけになることを願って日々センターは努力しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

仕事を継続していく上で育児との両立に努力、苦労されてきた女性医師、看護師等の方は今までにも数多くいらっしゃると思います。また、出産、育児を契機に離職された場合、仮に復帰しようとしても昨今の医学の進歩に追いついていけるか心配で復帰がためらわれる場合もあるかと思えます。このような問題を解決するために当センターでは復職支援研修部門として、潜在人材登録後、就業情報の提供をしつつ復職支援教育プログラムを提供します。子育て・介護支援部門としてはバックアップナースシステムや病児一時預かり室を稼働させ、旭川市の子育て支援制度・介護施設との連携窓口、悩み相談カウンセリング室としての役割も担っていく予定であります。詳細は大学HPにも掲載しておりますのでご覧ください。病院職員が働きやすい職場環境を整えるために職員皆様の当センターへのご意見もメール（nirinsou@asahikawa-med.ac.jp）等で頂けますと幸いです。

## 二交代制勤務の試行について

総務委員会 佐藤 とも子

二交代制については、平成4年に「看護婦等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」において、働くものが働きやすく、より適切な看護サービスが提供できる就業環境を確保するための方策の1つとして、多様な勤務体制の採用や個人のライフスタイルにあった幅のある勤務体制等の必要性が提言された。当時、職員の勤務時間は、人事院規則や厚生省訓令1号により、二交代勤務を導入できない状況であった。平成6年にこの勤務時間に関する法令等の改正が行われた事に伴い、翌平成7年には、国立病院・療養所において二交代制勤務の実施に関する実証的研究が行われ、平成8年10月に厚生省が国立病院・療養所における看護婦等の二交代勤務の実施について通知が出された。

平成18年7月現在、21の国立大学病院が二交代勤務を採用している。当院は入院病棟においては開設当初より3交代制勤務を行ってきた。NICUの開

設時は人員の配置の都合がつかず、医師に協力を依頼し1人夜勤の2交代制を一時期行ったのみである。看護部では平成18年より二交代制について検討を始めた。情報収集を開始しメリット、デメリットを明確化し試行計画を看護師長会に提示した。患者さんにとって就寝時起床時に同じ看護師で安心感が得られる、看護職にとって休日が有効に活用できる、記録時間が短縮できる、真夜中の通勤がないなどのメリットがある。しかし、長時間の勤務では集中力や疲労の問題、休憩場所・休憩時間の確保が前提となる。平成19年8月看護師長会で業務の調整や休憩時間等話し合い、共通理解したうえで、施行可能なNSを手上げ方式で2ヶ所を決定し10月から施行している。施行後は1ヵ月毎に休憩時間・疲労度・業務や超過勤務時間等の変化を調査し、他のNSでの可能性を含め分析をおこなっていく予定である。



## 病院長サンタ

12月21日(金)の午前中、病棟の子どもたちに、サンタクロースに扮した病院長から、プレゼントが配られました。



少々照れ臭そうな顔で写真に収まる子、突然のサンタに驚きながらも、嬉しそうにプレゼントを受け取る子など、さまざまな顔がサンタを迎えました。  
(経営企画課)

## クリスマスコンサート

12月22日(土)に、病院正面玄関で、東ロータリークラブの後援による、緑が丘中学校のクリスマスコンサートが行われました。

同中学校は今年1月にも、本院でニューイヤーコンサートを実施しており、午後2時の開演を目指し、生徒たちはお昼前から、協力して大きな楽器を運びこんでいました。

会場にはコンサートが始まっても観客が次々と訪れ、後方に席を足さなければならないほどの盛況ぶりでした。



「千の風になって」「大きな古時計」など、誰でも一度は聞いたことのある曲や、有名アーティストのコレクションに、患者さんや一緒にきた看護師さんは、熱心に聞き入っていました。  
(経営企画課)

## ドクターヘリによる傷病者搬送訓練

10月9日(火)～12日(金)にかけ、ドクターヘリによる傷病者搬送訓練を実施しました。

ドクターヘリは、医師・看護師がヘリで現場に駆けつけるため、救急車搬送よりも治療が早く出来る点などが注目されています。

今回の訓練では、手稲溪仁会病院が実際に使用し

ていたヘリを利用し、本院だけではなく、市立旭川病院、旭川赤十字病院、旭川厚生病院の医師・看護師も参加しました。

訓練期間中は肌寒い陽気でしたが、スタッフの尽力により無事終了することが出来ました。

(経営企画課)



## トークショー開催！

12月8日(土)に、「NHKおかあさんといっしょ」の第10代目体操のお兄さん（1993年～2005年にレギュラー出演）でお馴染みの佐藤弘道さんと、元バレーボール日本代表選手の益子直美さんが来院しました。



お二人はまず、小児科病棟を訪問、入院中の子供たちに「早く元気になってください」と励ましの言葉をかけ、お母さんたちにも大人気でした。

その後、玄関ホールで益子さんの司会によるトークショーを行い、弘道お兄さんが自身の入院体験を絡め患者さんにエールを送るなど、会場は終始和やかな雰囲気になりました。

また、最後に握手会が行われ、盛況のうちに終了しました。

(経営企画課)



## 【薬剤部】

## 副作用情報 (51)

抗悪性腫瘍薬タルセバ錠による  
間質性肺炎の誘発

医薬品による重篤な副作用として、薬剤性の肺障害があげられる。なかでも間質性肺炎を誘発する薬剤は350種類を超え、代表的な薬剤として抗癌剤、抗リウマチ薬、インターフェロン製剤、小柴胡湯に代表される漢方薬、解熱消炎鎮痛薬、抗生物質、抗不整脈薬、抗パーキンソン病薬などがある。発生頻度はプレオマイシンで8-10%、メトトレキサートで7%、アミオダロンで5%との報告があり、発生頻度はかなり高いといえる。また間質の炎症から肺細胞壁の繊維化が起れば予後は不良である。

2007年10月に製造販売の承認を取得したタルセバ錠（一般名エルロチニブ塩酸塩）は、上皮増殖因子受容体（EGFR）チロシンキナーゼ阻害作用を持つ抗悪性腫瘍薬であり、切除不能な再発・進行性で、

がん化学療法施行後に増悪した非小細胞癌に適応が認められている。イレッサ錠と比べ、25、100、150mgの3規格あり、用量の調節が可能となっている。

タルセバ錠の重大な副作用として、国内臨床治験において間質性肺疾患が4.9%に認められている。間質性肺疾患の発症が認められた際には、薬剤の投与を中止し、ステロイド治療等の適切な処置をおこなう必要がある。その他、肝機能障害、重度の下痢をはじめ、皮膚組織障害、角膜潰瘍形成、尿潜血陽性などの副作用が高頻度で報告されている。これらの副作用が出現した場合は、専門医の診断を受けて適切な処置を行うことが求められる。

使用にあたっては、副作用による死亡例の防止と安全対策の観点から、使用施設と処方医、全症例の登録を行う必要があり、処方の際には事前連絡が必要となっている。また処方医から患者に対して副作用発現に注意を促すために、治療確認シートの配布が求められている。本薬剤の使用に際しては、適正な投与計画の作成が特に求められる。

（医薬品情報室 飯田慎也）

## 輸血・細胞療法部門発④

## 救急における緊急輸血支援

救急部が本格的に稼働し始めてから、緊急に輸血を要する患者さんが増加してきました。輸血部門では2005年9月から救急患者に対する緊急輸血支援（検査技師の緊急輸血現場への派遣）態勢をとっています。簡単に説明すると、緊急輸血を要する患者さんが搬入された際、医師・看護師に救命処置に専念して貰うため、輸血部門の技師が現場へ出向き、製剤の請求、輸血検査用検体の確保、輸血実施処理などの輸血に関連する作業や、輸血製剤確保に必要な情報を輸血部門へ逐一伝達する業務です。

救急部から緊急輸血依頼が入ると、輸血部門検査技師はO型RCCを10単位もって救急部へ直行します。血液型不明の患者さんの場合には、2回の血液型検査用と交差試験用の採血を確保し、検査室に運

んで素早く輸血検査を行います。血液型が判明したら、同型の血液を持って再度救急部に走ります。当然、血液型が確定するまでは、最初に持って行ったO型のRCCを使用して貰います。派遣された検査技師の目で様々な救命処置が行われるため、血液の使用速度や必要量をリアルタイムに把握することができ、血液センターへの血液搬送依頼や院内に在庫している血液の確保（他の患者さんに用意された血液の一時借用）も迅速に行われるようになります。

このような取り組みにより同型の交差済RCCが用意できるまでの所要時間は約20から30分間短縮できました。また、輸血の専門知識を持った技師が救命現場に居合わせるため血液型取り違い事故が防止でき、一刻を争って輸血を必要とする救急患者の生存率改善に寄与することができると考えられます。

現状の人員配置では、輸血部門の業務時間帯にしき緊急輸血支援はできませんが、将来的に時間外にも対応できるようになると、当院の医療の質は向上すると思います。

（臨床検査・輸血部 副部長

輸血・細胞療法部門 紀野修一）

## 永年勤続者表彰

勤労感謝の日を前にして、平成19年度の本学永年勤続者表彰式が、11月20日(火)午前9時45分から第一会議室で行われました。

表彰式は、役員及び所属長の列席のもとに行われ、学長から被表彰者に対し表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

学長からの挨拶に引き続き、被表彰者を代表して松野病院長が謝辞を述べました。



なお、被表彰者は次の15名の方々です。

(敬称略五十音順)

- 伊藤 由利 (医療支援課)
- 加藤 剛志 (生化学講座 (細胞制御科学分野))
- 河端 薫雄 (臨床検査・輸血部)
- 川村 祐一郎 (保健管理センター)
- 菊地 美登里 (看護部)
- 北村 久美子 (看護学講座)
- 塩野谷 美恵子 (9階東ナース・ステーション)
- 田中 剛 (ドイツ語)
- 玉木 典子 (5階東ナース・ステーション)
- 原口 眞紀子 (4階東ナース・ステーション)
- 平 義樹 (解剖学講座 (顕微解剖学分野))
- 藤原 博 (学生支援課)
- 松野 丈夫 (病院長)
- 松原 和夫 (薬剤部)
- 山田 裕樹 (放射線部) (総務課)

## 平成19年度 患者数等統計

区分	外来患者数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数 (一般病床)
	初診	再診	延患者数								
7月	1,615	26,894	28,509	1,357.6	71.16%	58.20%	15,824	510.5	84.79%	87.42%	16.63日
8月	1,644	28,050	29,694	1,291.0	71.44%	58.03%	15,804	509.8	84.69%	85.46%	15.14日
9月	1,430	24,575	26,005	1,444.7	70.93%	60.28%	15,373	512.4	85.12%	87.44%	17.66日
計	4,689	79,519	84,208	1,358.2	71.18%	58.78%	47,001	510.9	84.86%	87.88%	17.41日
累計	9,485	158,153	167,638	1,351.9	70.71%	57.48%	94,264	515.1	85.57%	87.88%	16.78日
同規模医科大学平均	9,678	116,665	126,343	1,023.0	84.94%	51.10%	94,572	516.8	85.04%	85.17%	18.85日

(経営企画課)

## 時事ニュース

- 11月5日(月)～9日(金) 職員健康診断
- 11月6日(火) 院内消防訓練
- 11月7日(水)・8日(木) インフルエンザワクチン接種
- 12月14日(金) 正面玄関のクリスマスツリー飾る。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は次々と食品加工の偽造が発覚し、北海道の有名なメーカーも摘発され驚きました。操業を再開したメーカーの挨拶には、何度も信頼という言葉が繰り返されています。

病院では、信頼関係をつくるのが、診療の第一歩ですが、それは人材育成にかかっているといってもいいと思います。やっと一年を迎えようとしている新人看護職員は、先輩達の指導のもとで患者さんから信頼される看護をしようと多くの努力をしてきたことでしょう。医療技術の進歩、高齢化や重症化

と在院日数短縮など著しい変化に伴い、看護職員の業務は複雑多様化し業務密度も高まっていますが、看護の基礎教育は50年以上変化していません。フィリピンやタイは100%4年制の基礎教育です。日本でも検討はなされていますが、やっと10年ぶりにカリキュラム改正にこぎつけたところです。入職後の新人看護職員が基礎教育で習得する看護技術と卒業後に臨床で求められるものとのギャップを少しでも埋められる体制を充実させるための模索が続きます。チーム医療にあって、皆様からの温かいご支援を感謝しつつ、今年も引き続きよろしく願いいたします。(看護部 伊藤廣美)